

ファイブアローズ

PR映像で応援

男子プロバスケットボール・bjリーグ「高松ファイブアローズ」の選手らが登場するプロモーションビデオを、ソニーマーケティング高松営業所の守屋茂樹さん(38)が制作した。ファイブアローズを応援しようという4カ月がかりで取り組んだ力作。インターネットの動画サイトYouTubeで公開中で、県内の家電店でも放映される。

(林正幸)

試合の雰囲気ギョツ

ビデオは2分25秒。力強い音楽に合わせ、選手がシュートを決める様子や、観客の盛り上がりなどをテンポよく収録している。選手や「コーチらの「見に来て楽しんで」「地域のみなさんの元気ののもとになりたい」「応援よろしく！」といった思いもふんだんに盛り込まれている。

ソニー営業所員制作

ファイブアローズは2006年にbjリーグに参加したが資金繰りに行き詰まり、昨年6月にほほ運営会社が経営危機に陥った。その後、地元企業など

から運営資金を集め、元経済産業省の星島郁洋氏(38)を社長に迎え、チームの立て直しを図ってきた。

昨年7月、星島社長と出会った守屋さんは、学生時代に自主映画を制作していた経験を生かし、「新星」ファイブアローズを応援しようというビデオ制作を決めた。費用はソニー側が負担し、ソニーの機材を使った。制作会社とともに昨年9、10月に4度のチーム撮影を行い、6度の練習直しを経て完成した。



プロモーションビデオを制作し、ファイブアローズを力強く応援する守屋さん(高松市丸田町の野田屋電機)

医療産業を助成

県 新年度予算案に2300万円

健康志向が高まり健康関連産業が成長分野として注目される中、医療機器の研究、開発、製造に取り組む企業に対し、県が経費の一定割合を補助する。新年度

「医療、福祉の分野は成長する余地があり企業にとってはチャンスとなる。様々な企業が参入を検討してほしい」と話している。

「医療、福祉の分野は成長する余地があり企業にとってはチャンスとなる。様々な企業が参入を検討してほしい」と話している。

YouTubeで公開を始め、昨年末には約1万人が参加したニューレオマワールド(丸田市)のイベントの最中に放映され、チームを大いにPRした。

YouTubeも視聴できるソニーの液晶テレビ「BRAVIA」のPRを兼ね、県内の家電店の店頭でも放映していった。高松市丸田町の野田屋電機の植松亮介店長は「いつもはテレビ番組を流していることが多いが、このような宣伝方法は初めて。地元のチームを応援できるならどんどん放映したい」と話している。ビデオについて星島社長は「観戦したことがない人にも試合の雰囲気が伝わる素晴らしい仕上がりで、ありがたいです」と称賛。

守屋さんは「ソニーの営業所が高松にあることを考えて、盛り上げるのに一役を買えたらと思い作った。映像をきっかけに試合に足を運んでもらえるファンが増えたらうれしい」と願っている。

参入する企業が対象となる。

厚生労働省によると、全国の医療機器生産金額は2009年に1兆5761億円にのぼるが、香川は50億円と少ない。県産業政策課の担当者はい